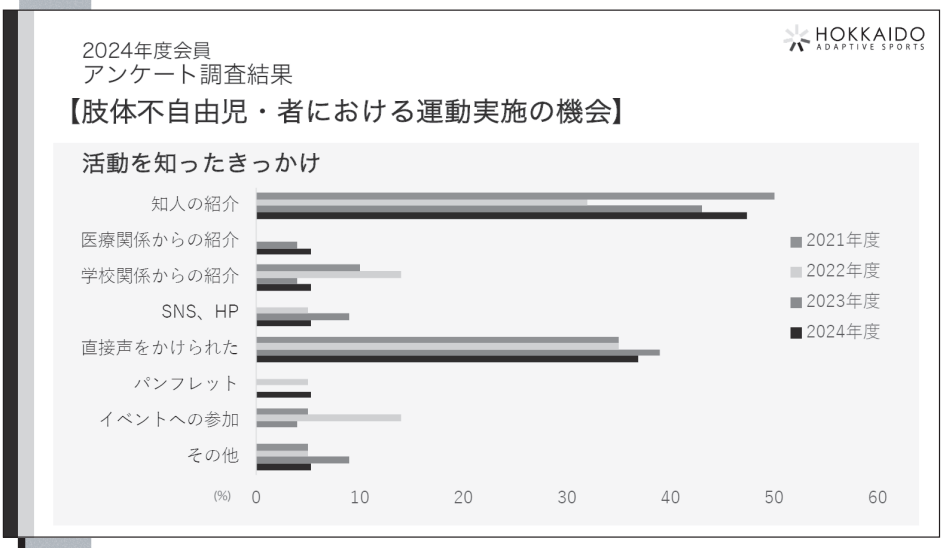
第7回北海道PTパラスポーツwebミーティング
The Power of Para-Sports
～アメリカIllinois大学における障がいのある学生への取り組み～

Illinois 大学　太田 ゆき菜

“これから理学療法士になるならお願いがある。理学療法士にはパラスポーツの情報を持っていてほしい。別に詳しくなくたっていい、ここでスポーツできるよ、この人に連絡とったらいいよとか、地域のパラスポーツと繋がる情報を持っていてくれるだけで障がいがあってもスポーツができる。社会に出た時の俺たちの生活が全然変わるからさ。”

5年前、あるパラアスリートが当時PT学生だった私に言った言葉です。その後私は北海道でジュニアパラスポーツチームのスタッフとして活動し、子供達が車いすスポーツを通じて成長していく姿を間近でみて刺激を受け留学を決意し、3年前に渡米しました。現在はアメリカのIllinois大学車いす陸上チームで働きながら、大学院で学びを深めています。

2025年7月9日に北海道PTパラスポーツwebミーティングにてアメリカの大学における障がいを持った学生への取り組みをお話しする機会をいただきました。Illinois大学は古くから大学での障がい者支援プログラムを有しており、”障がいのある個人に平等な機会を提供し、保護するのではなく人生のあらゆる危険や課題に対応できるようにすること”というミッションのもと、学業、スポーツ、寮生活などをサポートしています。車いすスポーツもこのプログラムに含まれ、学生たちは奨学金をもらいながらAthleticとAcademicのキャリアを構築できる環境で日々ハードワークしています。そして大学卒業後は栄養士や会計士、研究者などそれぞれの専門職につきながらパラリンピアンとして活躍する選手たちが多くいます。

ここには障がいのある人々にも多くの選択肢があり、何よりも普通の青春があります。パラスポーツの世界はまだまだ確立していない部分も多いですが、だからこそ面白くもあり、多くの可能性を秘めていると思います。スポーツは障がいのある人々に身体的･心理的･社会的に有益な影響を与えることが多くの研究から明らかになっており、理学療法士はそんなパラスポーツの強力なファシリテーターになり得ることが示されています。

アメリカではリハビリを通じてパラスポーツと出会うケースが多いです。しかし、北海道のジュニアパラスポーツチームでの調査では医療関係者からの紹介はわずか数%にとどまります。医療と地域におけるパラスポーツの連携を改善していくことは、障がいのある方々の人生の選択肢を増やすことに繋がると考えます。まずは是非多くの理学療法士の方々にパラスポーツを体験していただけると嬉しいです。選手と一緒に本気になって汗をかくこと。それがこの世界を知る一番の方法だと私は思います。